

DevOpsのこれからと Platform Engineering

DevOpsとは

- 「顧客に価値を素早く届けるため、開発・運用が協力する、文化的な姿勢・取り組み」のこと [^1](#)
- 企業によって全面に出す定義が異なるため

DevOpsの実践度

- IDC Japanの調査によると、DevOpsの実践率は年々伸びている。[^1](#)
- 2022年の調査では **59.3%** の実践率
- しかし、結論として「ビジネス上の効果が得られている企業は増えていない」とある。

DevOpsの**実践**は難しい

例:DevOps に求められる技術

学習ロードマップとして

Programming Language, OS,
VCS, Containers, Cloud
Providers, Network,
Serverless, IaC, CI/CD Tool,
GitOps, ServiceMesh etc...

などが挙げられている。[^1](#)

つまり、DevOpsを現場に落とし込む と、、、

エンドユーザーに届けるまでに多くの技術が関わる

開発者「こんなに
意識しきれな
い・・・」

よくある導入

- 「DevOpsチームを新しく作ったから、DevからOpsに渡るまでのセットアップはよろしく！」
- マイクロサービスごとにセットアップを任せられるチームができる。

DevOpsチーム
「数が膨大すぎ
る・・・」

デプロイ・運用までの
抽象化が必要

Platform Engineeringの需要

Platform Engineeringとは

- Garthnerの「先進テクノロジーのハイプ・サイクル：2022年」で登場 [^1](#)
- 開発者体験と生産性を向上させるためにセルフサービスで利用できるツールチェーンとワークフローを設計・構築する分野 [^2](#)

どう変わるのか

S

これは避けられない気がします😭

Howにこだわると危険

組織文化

•

まとめ

- DevOpsの

「やりたいことなんてない。これから
見つけられるかどうかもわからない。
でもみんながやりたいことがあるなら
それを援護することはできる」

SHIROBAKO © 「SHIROBAKO」 製作委員

DevOposは愛❤️

※ 蛇足

このスライドは **Marp** という
Markdownをスライドに変換
出来るツールで作っていま
す。[^1](#)

スライドをMarkdownで管理
してみたいそのあなた！
是非お試しを！

参考: [Marp入門～応用 |
markdownでプレゼン資料を楽
に素早く作って発表しよう](#)